

## まち・みちづくり特論II

開講科目名	まち・みちづくり特論II	講義題目	まち・みちづくり特論II
単位数	2単位	授業形態	講義科目   開講言語   日本語
開講科目名(英)	Community Communication Advanced Course II		
時間割コード	360424		
定員	15人		
担当教員	板倉 信一郎、森栗 茂一		
対象所属・年次	大学院前期、学部3年次以上の全学部生、社会人（若干名）		
開講区分・曜日・時間	2学期集中（基本隔週木曜6・7限（10月1日～）など）		
開講場所	KOANにて別途通知（一部学外で実施することがある）		
キーワード	みちづくり、行政、合意形成		
授業の目的・概要	まちづくりやみちづくりにおいて、行政職員と専門知識のない住民の間の橋渡しをすることができるメディアエーターを養成すべく、その一環として、地域における防災・交通安全等の観点からみちづくり（道路空間の再構成）を考える。授業においては、防災・交通安全等にかかる現時点での課題及び道路行政の仕組みについて概観したのち、個別の事例においてどのような解決策があるか、またその際に行政と地域住民、さらには道路利用者の中で噛み合った議論を行っていくための方策について、受講生、教員が共に考えていく。		
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 道路及びそれに関連する行政のしくみを理解し、一般常識を持った住民に説明できる</li> <li>・ 地域におけるまちとみちの課題を発見し、対話のなかから解決策を見いだしていく方法を身につけ、住民との対話や合意形成過程において活用できる</li> </ul>		
授業計画	<p>基本的には隔週木曜日第6、7限目に開講</p> <p>10/1 1 ガイダンス</p> <p>10/15 2,3 地域のみちづくりにおける課題</p> <p>10/29 4,5 行政の仕組み（みちづくり、まちづくり）</p> <p>11/12 6,7 討議1 防災、討議2 交通安全・防犯</p> <p>11/26 8,9 現地見学（学外、正式な時間と場所は確定次第通知）</p> <p>12/10 10「市民」について考える</p> <p>11 模擬ファシリテーション①この地域の道路をどうすべきか</p> <p>12/24 12 ワークショップ：地域の道路の課題の解決策の研究 班編成して解決策を1/15までに考えてきてもらう</p> <p>1/14 13,14 模擬ファシリテーション②解決策の説明と合意形成</p> <p>1/28 15 ふりかえり</p>		
授業外における学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ まちみちコミュニケーション研究室Webなどを通じて資料配布や情報提供を行う可能性があるため、インターネットの利用に習熟しておくこと。</li> <li>・ 授業では受講生同士の話し合いや共同作業、現地を見ながら関係者と議論することに時間を割きたいので、基本的には事前に指示された資料を通読、さらには自ら興味をもったことについて調べておくことが望ましい。</li> </ul>		
履修条件・受講条件	特にないが、前期で「まち・みちづくり概論」「まち・みちづくり演習I」を履修、あるいは相当する知識を修得しておくことが望ましい。		
教科書・教材	・ 授業の際あるいは上記Webを通じて資料を配布する予定。		

---

| 参考文献 |

- ・土木学会誌編集委員会編「土木とコミュニケーション」土木学会（2004）
- ・（財）道路空間高度化機構編「みち 創り・使い・暮らす」技報堂出版（2007）
- ・山崎亮「コミュニティデザインの時代 自分たちで「まち」をつくる」中公新書（2012）
- ・西村佳哲「かかわり方のまなび方 ワークショップとファシリテーションの現場から」ちくま文庫（2014）
- ・藤井聡・羽鳥剛史「大衆社会の処方箋」北樹出版（2014）
- ・国土交通省編「国土交通白書2014」（2014）

その他、授業やWebで情報提供する。

---

| 成績評価 | 「授業における発言等」30% 「レポート：地域の道路の課題の解決策の研究」30% 「授業への出席」40%

---

| 特記事項 |

---

必要に応じて個別事例の現地に赴き関係者との議論も用意したい。さらには、今後の人材育成に際して、個々人が経験して所有している「暗黙知」から多くに人びとに伝授できる「形式知」に転換していくべき知識と技法についても検討していきたい。このような方向に合致するような受講生からの提案があれば、それに合わせて授業計画を変更することもありうる。